

平成 30 年 6 月 29 日

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ 御中

学習評価における意見及び要望等について

中学校教育をはじめ、学校教育においては、子供たちに「生きる力」を確実に育むことが求められています。このことを実現するために、育むべき資質・能力の三つの柱として整理しています。

新学習指導要領の全面実施により教育課程をとおして、各教科等において「生きる力」である三つの資質・能力を確実に育てていくためには、

- ・ 子供たちの学習の成果を的確に捉える学習評価が極めて重要です。
- ・ また、学習評価は生徒の学習の成果を捉えるだけでなく、教師にとっては、自己の指導を振り返り、授業改善を図っていく上でも重要です。
- ・ 併せて、学習する子供たちへの励ましである学習評価は、子供たちの学びに向かう態度を育成する上でも極めて重要です。

私たち学校現場にある者は、これらの学習評価の意義を踏まえ、毎日の教育活動における学習評価により、子供たちの学習の成果、子供たちの変容等を的確に捉えるとともに、授業改善を図り、子供たちに「生きる力」を確実に育む使命を担っています。

<課題>

現在検討されている新たな学習評価を行うに当たり、次のような課題が考えられます。

- かつて、集団に準拠する評価から目標に準拠した評価へと転換した際、その理念と理念を具現化するための評価方法等が、学校現場に定着するまでに長い時間を要しました。今回も同様なことが起きることが懸念されます。
- また、目標に準拠した評価が、導入当初、生徒、保護者をはじめ、社会においても正しく理解されていなかった状況も見られました。
- 中学校における評価及び評定は、高等学校への入学選抜資料として用いられることから、その信頼性及び客観性を確保することが重要な課題となります。一方で、目標に準拠した評価及び評定を入学選抜資料として用いたことが、中学校における評価の精度向上に一部有効であったことも事実です。
- 子供たち一人一人の学習の成果、変容を捉えるとともに、情意面を含めて学習評価を行うに当たっては、ペーパーテストのみならず、学習内容、評価する資質・能力に即して、パフォーマンス評価、ポートフォリオ、ルーブリック評価等、各評価方法の特性を踏まえ、組み合わせる必要が出てきます。その際には、評価のための評価にならないように留意する必要があります。
- 一方では、このように一人の生徒を多角的に評価することが必要なため、教員の長時間労働の一因となっています。

<要望>

以上の学習評価に関する課題を踏まえるとともに、全国の中学校において学習評価をとおして子供たち一人一人の学習の成果や変容を的確に捉え、「生きる力」を育むことができるように次のことを要望いたします。

・ 参考資料の早期提示

教員が各教科等の特性及び学習する単元、生徒の実態等を踏まえ、評価規準を設定するための参考資料の提示をお願いします。また、設定した評価規準について、検討することができるように早期のご提示をお願いします。併せて、教科の枠を越えて育成すべき力に関する評価の在り方についても具体的な例示とともにご提示くださるようお願いいたします。

・ 研修の充実

全ての教員が、新学習指導要領における学習評価の意義を踏まえた評価を行うことができるように研修の機会を設けるとともに、研修内容の充実を図ることを各自治体に働きかけてください。

入学者選抜の資料となることから、評価の信頼性、客観性を確保するための具体的な方策を講じること及び研修の実施等について、高等学校の設置者である各都道府県教育委員会に働きかけてください。

・ 社会への周知

新学習指導要領の改訂の理念、学習評価の在り方等について、中学校現場からも発信してまいります。国からも引き続き周知に向けた働きかけをお願いします。

・ 大学等教職課程内への位置付け

ベテラン教員の退職、若手教員の増加が進む中で、学校における教員としての技能等の伝承が困難な状況にあります。このことを踏まえ、大学等養成段階において、学習評価に関して学ぶ機会を設けてください。

・ 定数改善及び持ち時数

生徒一人一人の学習の成果や変容をきめ細かく捉えるためには、教員定数の改善は避けてとおることのできない課題であると考えます。また、中学校においては、教科担任制であるため、持ち時数の在り方についても検討くださるようお願いいたします。

・ ICT等を活用した学習評価の研究

教員の働き方改革の視点から、評価のための評価にならないよう、限られた時間の中で生徒一人一人の学習の成果や変容を捉え、評価ができるよう、ICT等を活用した評価の在り方についての研究を推進してください。

全日本中学校長会 会長 山本 聖志

担 当 全日本中学校長会 事務局長 松澤宏尚

連絡先 〒105-0003

東京都港区西新橋 1-22-13

(電話) 03-3580-0604

(FAX) 03-3580-0746

(E-mail) matsuzawa@zennichu.org